



~建築は、建てることより育てること~

# MIZUNO "旬感"だより

vol.195

令和5年5月号

あおあらし・せいらん

## 青嵐

青葉を吹きわたる  
やや強い風

5月の異称=皐月(さつき) 早苗(稲の苗)を植える月“早苗月”が略され、“さつき”と呼ばれるようになったようです。

## 今月の言葉

『ツバメ』



金田一春彦著“ことばの歳時記”より

町なかを低くとびかうツバメの姿が見られると、名実ともに初夏である。店舗の軒下などにこぢんまりと巣を作り、大きな口をあけてうるさく催促するヒナにかいがいしくえさをはこぶ親の姿は、ほんとうにほほえましい。

ところで、ツバメにしろスズメにしろ、鳥の名には最後に「メ」がつくのが多いが、このメは生き物ことに鳥の総称だったようだ。カモメという鳥もあるし、昔はヤマガラをヤマガラメとよんだ歌が『拾遺集』という歌集にのっている。サ行の子音は古くはチャ行の音だったという学説がある。そうすると、チューチューと鳴く鳥がチュジュメすなわちスズメで、その鳴き声から「ツパツツパツ」と鳴くやつがツバメと言われるようになったということになる。

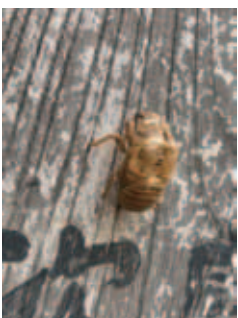
栃木県・茨城県などの農村や福井県の山村では鳥だけではなく獣や虫にまでメをつけて呼ぶ。牛はウシメ、蚊はカメという伝であるが、「先生」にまでメをつけて「センセイメが来た！」と叫んだ生徒がいたのには驚いた。

以前、ムクドリが本社の中庭に巣を作ったことがあり、巣の材料にビニールのひもが使われていたので驚きました。ムクドリも資源を再利用して、エコを考えているのだな?と思いました(笑)。



## 水野博旨

### ~本社中庭で“ド根性セミ”観察中です!~



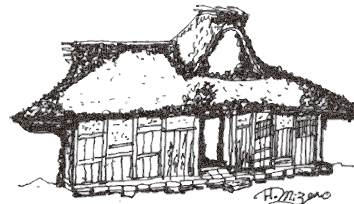
昨年の夏、カリンの木の葉と木看板から巣立ったセミの抜け殻が、雨風どころか台風にも耐え、冬を越しました。カリンは落葉樹なので冬に全て葉を落とすのですが、なぜか抜け殻のついた葉だけ枯れず、青いまま落ちていません。(他の葉はこの春に出てきた葉) 摩訶不思議です。セミの抜け殻はツバメの巣と同様に“縁起物”のようです!

## 空間設計 ミズノ vol.73 のデザイン記録

ローカルな本屋が好きです。書店員さんの本に対する思いやこだわりを感じられる本屋を好んで行くようにしています。専門書を購入する機会も多いので、駅近くの大型店やネットでは地元の本屋が一番です。さて、東区東片端の正文館さんが今年6月に閉店するそうです。76年間営業されてきたそうで、行かれた方も多いのではないのでしょうか。正文館さんに行き、購入したばかりの本を近くの喫茶店ボンボンさんで読むのが千載一遇でした。私の楽しみが半減、残念でなりません。



スケッチ・文：水野真宏



### 伝統再築士による 古民家&日本建築講座

伝統再築士とは…次世代に引継ぎたい文化的価値の高い木造物を残すための専門家

先月に続き、普段使う言葉で建築用語が語源になっているものをご紹介します!



【結構(けっこう)】意味→見事なさま。満足なさま。

〈語源〉元は漢語で“建物の構造や文章の構成”を意味していて、その計画の出来を称賛する時に“見事な結構だ”という風に使われていました。それが徐々に短縮されて“結構”だけで褒める意味となったようです。お断りする時の“もう結構です”は、十分満足しているからこれ以上必要ない、といったニュアンスから生まれたようです。

【叩き上げ(たたきあげ)】意味→苦労を重ねて一人前になること。

〈語源〉土など三種の材料を混ぜて練って叩いて作る土間を表す言葉“三和土(たたき)”が語源となっていて、叩き方が生半可だと良い土間にならないといわれたことから、下積み時代の苦労を経て一人前になることを“たたきあげ”と表現されるようになりました。

【建前(たてまえ)】意味→基本となる方針。表向きの考え。

〈語源〉梁・柱・棟など主要な骨格を立てる上棟式のことを大工さんたちは“建前”とも呼びます。建前が済めば、どのような家が建つかわかることから、このような意味で使われるようになったようです。言葉の由来を探ると時代背景や文化も知ることができて面白いですね!

株式会社 ミズノ  
ホームページ→

新ホームページもご覧ください。

mizuno1950

で、検索  
又は→



空間設計 ミズノ  
ホームページ→

www.mizuno-architects.com



— ご相談やお問い合わせはこちらへ —

さわやかなすまいに

0120-387-312

mizuno@mizuno1950.co.jp



— 建築は、建てることより育てること —

一級建築士事務所

株式会社 ミズノ 空間設計 ミズノ

5月6日は“立夏”暦の上では夏の始まり。  
5月21日は“小満”あらゆる生命が満ちていく時期。

第二十二候 5/21～5/25 “蚕が活発に動き出して桑の葉を食べる頃”

かいこおきてくわをはむ

## 『蚕起食桑』



春から動き始めた生き物たちが活発に動き、草木は生き生き茂ります。今ではほとんど見られなくなった養蚕は戦前まで盛んで、蚕の餌となる桑の葉畑が多くありました(地図記号があったくらいです)。蚕が桑の葉を一斉に食べる音は雨音に例えられました。ひと月後にはからだの周りに白い糸を吐きながら巻きつけ、繭となります。



第二十三候 5/26～5/31 “黄色の濃い紅花が咲く頃”

べにばなさかう

## 『紅花栄』



新緑から緑深まり、生命力が満ち溢れる時期です。紅花は染料として栽培されこの時期に花を咲かせ、その花びらが口紅や着物を美しく染めます。咲き始めは鮮やかな黄色、夏に近づくにつれてオレンジ、紅色と移ろう姿も楽しめるのだそうです。紅は“くれない”と呼ばれますが“呉藍(くれのあい)(呉からきた藍)の異名を持ちます。それが転じて“くれない”となったとか。

## 株式会社ミズノ・空間設計ミズノのご紹介

当社は住宅や店舗の建築・リフォーム・リノベーション等建築全般の設計～施工監理を承っております。本社は港区七番町に、設計部・空間設計ミズノ(一級建築士事務所)は東区の名古屋陶磁器会館内に事務所があります。どちらの場所でもご相談可能です。



港区・本社

### 相談は無料です【要予約】

本社1階はメセナイベント(文化活動)や打合せを行う場所として使っています。2階が事務所となっておりますので、ご用の際は北側の階段をお上がり頂き、お声掛け下さい。

設計部(一級建築士事務所)は東区の名古屋陶磁器会館2階に事務所があります。この建物は、国登録有形文化財でもあり度々映画やテレビドラマの撮影などで使われています。“文化のみち”にお越しの際、建物の見学だけでも、ぜひお立ち寄り下さい。



東区・名古屋陶磁器会館

“文化のみち”とは、名古屋城から徳川園にかけての一角には名古屋の近代化の歩みを伝える貴重な歴史遺産が多く残されており、“文化のみち”と呼ばれています。

この“文化のみち”で今月末の土日に大人も子どもも楽しめるイベント開催予定です!

(空間設計ミズノも協賛しております)

建築に関するご相談は、夜間や土日祝日、お子様連れもOKです!



↑詳しくはこちらのHPで。https://iku-iku-mishiru.jimdofree.com



5月10日～16日は野鳥を通して自然保護の大切さを  
知り広めていく“愛鳥週間(バードウィーク)”です。

### “Early bird (アーリーバード)”のススメ!

5月は一年で最も爽やかで清々しい季節ですね。“早起きは三文の徳”ということわざがありますが、英語で“The early bird catches the worm. (早起きの鳥は虫を捕まえる)”といひます。“early bird = 早起きの人、早朝の”、さらに“早めに行動する人、周りよりも早く動くことで得をする人”という意味もあります。ゴルフ用語としても使われていて、お得な“早朝プレー”を意味するようですね。要は、いつもより早めに動くことに心な余裕ができて、今まで気が付かなかったことに気が付いたり、できなかったことができたり…何だか得したような気分になるのだと思います。いつもより10分だけ早く起きて窓を開けて朝の日差しを浴びながら風や音や匂いを感じ、丁寧に茶や珈琲を淹れてゆっくり飲む。それだけでも、心地よく一日をスタートさせた日は、いつもと違った一日になりそうです。ちなみに early bird の反対語は night owl (夜のフクロウ)、やはり鳥で表現されていますが、“夜型の人、夜更かしする人”という意味で、遅刻する人、行動が遅い人のような意味はなさそうです。

先日のミズノメセナイベント“一隅を照らす”作品展に出展して下さった神納正治さんのバードカービング作品をご紹介します!

左からツグミ、ヤンバルクイナ、コムクドリ、コアカゲラ、カワセミ。どれも剥製のようでした。



～バードカービングとは～

一つの木片から彫刻刀やグラインダーを使って鳥を原寸大に彫り出し、細密に彩色した野鳥彫刻です。アメリカでカモ猟の“おとり”として使われていた木製の鳥模型(デコイ)が始まりで、徐々に工芸品となり、バードカービングという言葉が誕生しました。

第70回ミズノメセナイベント予告

お待ちかねのコンサート  
いよいよ、再開です!

開催  
決定

“The Wheel” 山本哲也&小松崎健

アイリッシュギターと

ハンマーダルシマーのコンサート

2023年 7月22日(土曜日) 開場 18:00  
開演 18:30

会場:株式会社ミズノ本社1階(名古屋市港区) / 参加費:2000円



山本哲也(ギター)  
小松崎健(ハンマーダルシマー)

2019年の文化の日、“歩こう!文化のみち”イベントの一環として、名古屋陶磁器会館でソロコンサートを行い大変好評だった山本哲也さんと、北海道で長年ハンマーダルシマーを弾いている小松崎健さんのデュオコンサート。これはとっても貴重な機会です。ぜひお越しください!

※参加のお申し込みは、来月より受け付けさせていただきます。



住宅・店舗の設計・施工・監理  
株式会社 ミズノ

〒455-0001  
名古屋市港区七番町5丁目3番地  
TEL: 052-652-6886  
FAX: 052-661-0653  
Web: www.mizuno1950.co.jp  
Mail: mizuno@mizuno1950.co.jp

☎ 0120-387-312

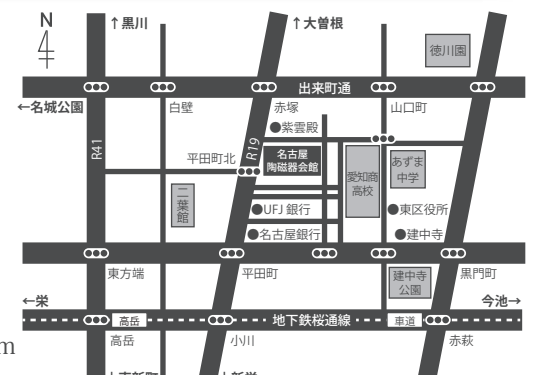


・駐車場は社屋南側と郵便局側にございます。  
・市営地下鉄「東海通駅」下車、1番出口より徒歩3分

一級建築士事務所  
空間設計 ミズノ

〒461-0025  
名古屋市東区徳川一丁目10-3  
名古屋陶磁器会館2階204号室  
TEL: 052-982-8316  
FAX: 052-982-8357  
Web: www.mizuno-architects.com

住宅設計・デザインリフォーム・商店設計  
コンバージョン(用途変更)・など



・最寄りの駅 市営地下鉄 桜通線 高岳駅(徒歩20分)  
・最寄りのバス停 市バス 赤塚バス停・赤塚白壁バス停